

調査環境部

児童にとっての最大の言語環境は教師である

教師の思い

- ・国語で学級や学校を豊かにする
- ・美しい言葉、豊かな言葉、心に響く言葉を学校に広げる



児童の言語活動は最大の学習材である

声の大きさを意識したり、自分と友達の意見を比べながら聞いたり発表したりできる。

発表の仕方

- ・ はい。～です。
(理由は)～です。
- ・ 同じです。
- ・ つけたします。
- ・ にています。
(理由は)～です。
- ・ ～だと思えます。
(理由は)～です。

川辺小学校 声ののび

グループではなしをする
はなしをする
きょうしつのみんなに
はなしをする
とちがいをよび
こいつでとちがいを
ともだちをよび

0 1 2 3 4



学校全体を豊かな言語生活の場に

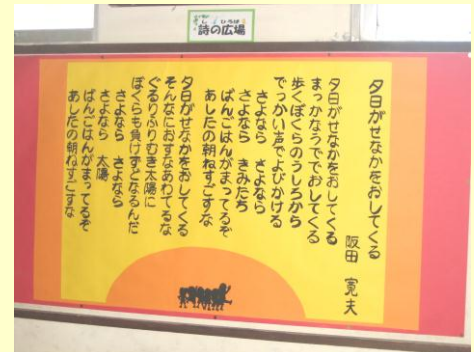
国語の広場

- ・ 同じテーマの他学年の作文に触れることにより自分の成長を感じこれからの自分への思いを深める。
- ・ 行事作文を書くことで自分をふりかえり思いを文章化する力を養う。
- ・ 新聞コーナー（一般紙2・子ども新聞1）を常設する。



詩の広場

- ・ 子どもたちの感性に訴えるメッセージ性のある詩の掲示
- ・ みんなで読んで、考えいろいろな表現の仕方を知る。
- ・ 言語感覚を育み、日本語の持つ美しい響きを感得する。
- ・ 学習に関連のある詩・季節にあった詩・リズム感のある詩・古典など。
- ・ 繰り返しの音読により確かな理解を深め話し合い活動へつなげる。



本の広場

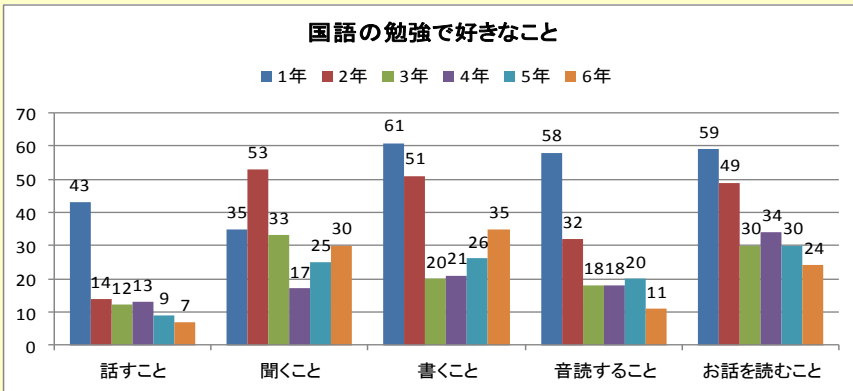
- ・ いつでも気軽にすぐ本と触れ合える環境づくり。
- ・ 畳を使用し落ち着いて座り友達と読みあえるベンチの作成。
- ・ 家庭から募集した読書標語やおすすめの本紹介により気軽に本に触れる機会をつくる。
- ・ 全学年が楽しめる絵本を多数用意しいつでも手に取り触れ合える場をつくる。



成果の確認と改善の指針は常に児童の変容から

国語への意識を探るアンケート調査

年2回のアンケート調査から子どもたちの苦手意識や興味関心など実態把握を行う。



ほかに好きなこと
 かるた・音読発表・
 論語・詩をつくる・
 俳句・意味調べ・
 ことわざ・四字熟語・
 しりとり・音読・詩を
 読む・本を紹介すること
 など

グループで話す場面を好み、読書や音読好きの児童が多い傾向や、文の見直しや話を聞く態度に課題がみられ、各研究部で対策を考え実施する。

文字を言葉としてとらえる視写

平成19, 20年度、国語科の「書くこと」の研究を継続し、視写力を重視する。速く正確に書くことや文章を書く楽しさを積み重ねる。

- 語句をまとめてとらえる
- 文字に慣れ親しむ
- 文章の理解を助ける
- 筆速を高める

視写をして変わったこと
 書くのが速くなった・字が上手になった・字を書くことが好きになった・5分間で書ける文字数が増えてきた・きれいに書けるようになった。など



黒板に文字を刻む

目標字数 5分間

- 低学年 ・ 75~100字
- 中学年 ・ 100~125字
- 高学年 ・ 125~150字

